

スローガン：『星崎学区から1人の犠牲者も出さない』

提案代表者 (P20)
星崎学区連絡協議会会長
星崎消防団団長

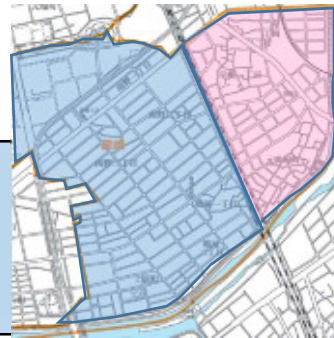
《地区の特性》

● 地区の状況 (P4)

- 1 高齢化が進んでいる
- 2 東側は木造住宅が密集
道路幅が狭い
- 3 西側は伊勢湾台風後に区画整理
道路幅が広い
- 4 工場と住宅が混在している

● 地区の主な災害リスク (P6、P23)

- ・震度6強～7
- ・液状化可能性大
- ・津波浸水



河川、木密地域、
新幹線、区画整理
などの影響

- ・震度6強～7
- ・液状化可能性大
- ・建物倒壊
- ・道路閉塞
- ・火災延焼

星崎学区の特性を踏まえた上で、地震発生時・平常時の活動は…

《災害時の活動（地震発生時）》

● 初動期 (P7)

- 1 自助
- 2 町内ごとの避難行動指針
 - (1) 町内ごとの一時集合場所
 - (2) 町内ごとの災害に応じた避難
- 3 自主防災組織の活動

● 生活期 (P11)

- 1 耐震化対応家屋は半数で、避難者多数
- 2 避難者主体による指定避難所の開設・
運営の必要性

● 復興期 (P13)

今後議論予定

《平常時の活動》 (P14)

● 住民への普及啓発

学区独自で「ハザードマップ」「減災活動
と避難行動の手引き」を作成・配布

● 助け合いの仕組みづくり

災害時要援護者1名に対し支援者2名
以上での対応に努める

● 自主防災訓練、学習会等の継続

学区単位（年1回）
学区内の各地区（月1回）

● 防災安心まちづくり委員会

地区防災計画の継続的な見直し・検討
（2年に1回以上）

学区の取組状況 (P20)

《これまでの取組》

e 防災マップコンテストや防災ラジオドラマ
コンテストで最優秀賞などを受賞

《地区防災計画策定への取組》

平成27年度 会議17回、訓練1回
平成28年度 会議14回、訓練1回

《今後に向けての認識》 (P19)

- 地区防災計画策定の議論を通して、「やらされる防災」から「やらなければならない防災」に
変わりつつある。
- 本計画に至る検討を通じ、今後の取組課題も見えてきた。
- 計画は作成するだけでなく実行すべきものであり、災害に強いまちづくりを進めていく。